

CUCM VM 上でリカバリ ソフトウェアを入手し 実行する

目次

[概要](#)

[背景説明](#)

[リカバリ ソフトウェア ISO イメージのダウンロード](#)

[ESXi データストアへの ISO イメージのアップロード](#)

[リカバリ前に必要な VM 設定](#)

[リカバリ後の要件](#)

概要

このドキュメントでは、Cisco Unified Communications Manager (CUCM) のリカバリ ソフトウェアを入手して実行する方法と、リカバリの前後で仮想マシン (VM) 設定に必要な変更について説明します。

背景説明

リカバリ ソフトウェア ISO イメージは ESXi データストアに保存されます。

データストアは、各ストレージ デバイスの仕様を隠し、VM ファイルのストレージの統一モデルを提供するファイル システムに似た論理コンテナです。また、データストアは、ISO イメージ、VM テンプレート、およびフロッピー イメージを保存するためにも使用できます。

vSphere Client は、ESXi ホストが検出したさまざまなタイプのストレージ デバイスにアクセスしたり、それらにデータストアを展開したりするために使用されます。

リカバリ ソフトウェア ISO イメージのダウンロード

リカバリ ソフトウェア ISO イメージを入手するには、次の手順を実行します。

1. シスコのホームページで、[Downloads Home] > [Products] > [Unified Communications] > [Call Control] > [Unified Communications Manager (CallManager)] に移動します。
2. 該当する CUCM バージョンをクリックして、リカバリ ソフトウェアをダウンロードします。
。

3. リカバリ ソフトウェア ISO イメージをダウンロードして、それを ESXi データストアに保存します。

ESXi データストアへの ISO イメージのアップロード

vSphere Client のバージョン 5.0 経由でリカバリ ソフトウェア ISO イメージをデータストアにアップロードするには、次の手順を実行します。

1. vSphere Client にログインします。
2. [Datastore and Datastore Clusters] をクリックします。
3. ファイルをアップロードするデータストアを右クリックして、[Browse Datastore] をクリックします。
4. ISO イメージをアップロードするフォルダを選択します。
5. [Upload files] タブをクリックします。
6. イメージが保存されているマシン上のフォルダの場所を参照します。
7. ファイルを選択すると、ポップアップ メッセージが表示されます。[Yes] を選択します。

その後で、データストアへの ISO イメージのアップロードが開始されます。

リカバリ前に必要な VM 設定

リカバリ ソフトウェアを実行する前に、VM 設定が正しいことを確認するには、次の手順を実行します。

1. vSphere Client から、CUCM VM マシンに移動します。

2. リカバリ ソフトウェアを実行する VM を右クリックして、VM の電源をオフにします。
3. 右クリックして、[Edit Settings] に移動します。
4. [Hardware] タブで、[CD/DVD drive] を選択して、[Connect at power on] チェックボックスをオンにし、データストアに保存した **recovery.iso** イメージを参照します。
5. [Options] タブで、[Boot Options] を選択して、[Force BIOS Setup] チェックボックスをオンにし、[OK] を選択して、VM の電源をオンにします。
6. VM が BIOS モードでブートします。ブート メニューに移動します。
7. [CD-ROM Drive] オプションをリストの一番上に移動するには、プラス (+) 記号を使用します。
8. F10 キーを押すと、この設定を保存するかどうか尋ねられます。

これで、リカバリ ソフトウェアが格納されている CD-ROM ドライブからシステムがロードされます。システムが起動すると、次の図に示すオプションが表示されます。

9. オプション F を選択します (F キーを押します) 。

ファイル システム チェックが開始されます。

ファイル システム チェックが完了すると、メイン メニューに戻ります。

10. リカバリ ソフトウェア プログラムを終了するには、オプション Q を選択します (Q キー

を押します)。その後で、次の図に示すように、システムをリブートするように要求されます。

リカバリ後の要件

注: リブートに進む前に、[Force entry into BIOS] チェックボックスがオフになっていることを確認します。

リカバリ ソフトウェアを実行したら、次の手順を実行します。

1. VM を右クリックして、[Edit Settings] > [Options] > [Advanced] > [Boot Options] に移動し、[The next time the virtual machine boots, force entry into the BIOS setup screen] チェックボックスがオフになっていることを確認します。

2. [Hardware] タブで、[Connected] チェックボックスと [Connect at Power ON] チェックボックスをオフにします。

3. システムのリブートに進みます。

CUCM VM を右クリックします。

マシンの電源をオフにします。

マシンの電源をオンにします。

注: リカバリ ソフトウェアはファイル システムのエラーの修復とシステムの読み取り専用モードからの移行を支援しますが、サーバを次のパッチ レベルにアップグレードするか、サーバを再構築することをベスト プラクティスとしてお勧めします。